

ビジネスアイデアの概要

うつ病（国内127.6万人、経済損失2兆円）・社会的ひきこもり（140万人超、損失2.8兆円）という深刻な社会課題がある。現状の精神医療では早期発見・介入が著しく遅延し、**客観的・定量的な評価手段が存在しない。**

この課題を解決するために企業・健診機関を対象として、**問診票＋血液バイオマーカーを統合したAIひきこもりリスク・スクリーニングサービスの事業化**を目指す。

ビジネスアイデアを事業化するための課題

- ・ ひきこもりリスク予測アルゴリズムの高精度化（100検体以上の血液・問診統合解析）
- ・ 顧客候補（上場企業・健診機関）のヒアリングと初期提案の実施
- ・ パートナー候補（健診・検査受託機関）とのMOU締結、PoC企業/自治体確保

事業化の見通し

血液バイオマーカー×問診データによるAIスクリーニングサービスをPoC実運用レベルの到達を目指し、企業・健診機関向け標準レポート・価格体系・受託契約書式を整備し、商用展開可能な状態へ。PoC契約を成立させ、運用フロー（採血・問診・解析・返却）の実証を完了する。

サービス単価の妥当性を検証し初期価格を決定、2027年度以降の本格販売戦略の足場を固める。**健康経営・離職予防・自殺予防など国民メンタルヘルスに大きく貢献するデジタルメンタル医療モデルを創出する。**

事業者情報

金木 太生/Taiki Kaneki
（北海道医学部医学科4年）

ビジネスアイデア概要図等

